

天声人語

日本が初めて五輪に参加したのは1912年、ストックホルム大会である。マラソンに挑んだ金栗四三は、炎暑で半数の選手が棄権する中、行方不明に。『消えた日本人選手』と現地で報じられた▼今夜から始まる大河ドラマ「いだてん」の主人公は、金栗である。五輪に3度出場し、箱根駅伝の創設にも奔走した。「日本マラソンの父」と呼ばれるゆえんだ▼出身地はいまの熊本県和水町。「金栗四三生誕の町」「大河ドラマ主人公」と書かれたのぼりが町内になびく。築200年という生家は補修され、駐車場とトイレが新設された▼「大河は青天のへきれき。観光振興の好機ですが、何から手をつけるべきか見当がつきませんでした」と町商工観光課の鍋島忠隆さん(49)。昨年の大河「おんな城主直虎」の地元浜松市へ赴き、NHKからも助言を受ける。学んだのは放送週目から一気に人が押し寄せること、そして番組が終わると客足が止まることだった▼観光客は呼び込みたい。しかし町の予算は限られている。新設のミュージアムは廉価なプレハブ建てとし、放送が済めば閉じることに決めた。地に足の着いた判断と言うべきだろう。大河を迎えるのは相当な難事のようである▼さて、五輪本番で脱落した金栗は半世紀後、現地に招かれて走る。ゴールを切ったのは75歳。「金栗選手、タイムは54年8力月6日5時間32分20秒3」という音声が場内に響く。ドラマではきっとそんな一代の名場面も描かれることだろう。

2019・1・6